

# 佐伯史談会三十周年を迎えて

山 本 保

(会員・佐伯市池船町)

昭和三十三年三月十六日

東京都 一二名

佐伯史談会(会長故柴田勝美)は、会員一名、予算

世田谷区・大田区・目黒区・文京区・千代田区

六、三八七円で発足しました。

三鷹市・狛江市・国立市(8)

昭和四十三年三月十七日

東京都近県 一六名

発足十周年慰霊祭・青木猛比古百周年資料展を龍護寺

神奈川県・千葉県・埼玉県・茨城県・静岡県(5)

で開催しました。会員二三七名、予算一四九、五三九円  
へと成長しました(会長高木嘉吉・事務局長故羽柴弘)。

昭和五十三年三月十九日

中国・四国 五名

発足二十周年慰霊祭・思い出資料展・懇談会・祝賀会

島根県・徳島県・高知県・愛媛県(4)

などを龍護寺で開いて、会員四七二名、予算八三五、七  
三四円へと発展しました(高木会長・故羽柴事務局長)。

九州方面 二五名  
宮崎県・福岡県・熊本県・長崎県・沖縄県(5)

昭和六十三年度

以上、県外は六八名です。

発足三十周年を迎えることができました。

大分県内 五一名(7市5町)

会員の状況は左の通りです。

大分市・別府市・中津市・杵築市・臼杵市・津久見市

宇佐市・日出町・安心院町・玖珠町・九重町・三重町

南海部郡内 一一一名(5町3村)

弥生町 三一名 本匠村 八名

直川村 一七名 上浦町 八名

米水津村 二〇名 鶴見町 五名

蒲江町 二八名 宇目町 四名

佐伯市内 二四三名

青山 一六名 上堅田 一四名 下堅田八名

木立 六名 西上浦・八幡 一七名

鶴岡 三六名 旧市内 一四六名

右のように、県外六八名、県内五一一名、南海部郡一二一名、佐伯市二四三名、合計四八三名の大世帯にふくれあがりました。内訳は男三八三名、女一〇〇名です。

役員にも、平川マサ副会長・三輪タネ会計・柴富剛枝・三浦エミ子各評議員、宮崎チズ・今泉信子各幹事等のように女性の進出が目立つようになりました。

また、贈呈者(史料交換者も含む)四二名、賛助会員六〇名、一般会員三八一名となります。

予算面では、昭和四十年ごろは、収入八九、〇一二円、支出六六、四七七円となっていますが、収入の六二%は

篤志家の浄財援助によるものであり、印刷費はガリ版の手作りで、西洋紙代だけにすぎませんでした。昭和十五年四月から印刷に切り替えました。

昭和六十二年度は、印刷費五二万円、会誌発送費一〇万円余りで、故羽柴弘副会長兼事務局長時代とは格段の相違をみせるようになりました。しかし、特筆すべきことは、昭和六十二年十二月二十六日、佐伯史談会誌が学術刊行物(第四種郵便物)に指定されたことです。

高木嘉吉元会長・故羽柴弘・清田義雄元副会長・塩月佐一前会長時代からの懸案が、平川マサ副会長・佐藤巧事務局長などの努力によって解決され、一冊の発送費が三十円の小額となり、また封筒の宛名もワープロ化されて事務内容が一段と簡略化されました。

他方、賛助会員の死亡、高齢化によって、浄財援助も減少しています。予算面でも厳しい段階に突入しています。一般会員も高齢化、病気などで退会する方々も増えてきています。編集局長(後藤知久)・事務局長(佐藤巧)も若がえりましたが、青年層を会員として、お迎えしなければならぬ局面を迎えています。